

縄南中通信



平成26年11月 1日 発行
2014年度 第7号

「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」

東大阪市立縄手南中学校
校長 日比野功

教育活動の重点キーワード

「縄南道」の形成、「心・技・体」の研鑽

学習習慣の確立！敵は我にあり！ ～全国学力学習状況調査結果分析から～

毎年4月に実施される全国学力学習状況調査の結果が各市町村と各学校に返却され、個人データを10月初めに各自に返却し、学校では結果分析を行いました。平均正答率といった観点から大阪の成績が伸び悩んでいることもありマスコミ等で話題になり、多くの意見が飛び交っていることが現実です。点数だけがクローズアップされることが多い現状ですが、現在求められている学力とは、これからの激しい変化が予想される社会において、一人一人が困難な状況に立ち向かうことが求められる中、これまでの知識のつめこみだけではなく、学ぶ意欲や自分で課題をみつけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含んでいます。全国学力学習状況調査は国語および数学とも、主に基礎基本に関するA問題と、主に活用力に関するB問題の調査が実施されました。本校の結果は全国と比較し、国語ではA問題において全32問中1.7問程度、B問題において全9問中1問程度、数学ではA問題において全36問中4問程度、B問題では全15問中1.5問程度、正答数が低かったという結果でした。また同時に実施される児童生徒質問紙調査では全国と比較し、「将来の夢や目標を持っている」「学校へ行くのは楽しい」「学校の規則を守っている」「難しいことでも失敗を恐れず挑戦している」「読書は好き」等の項目で高い結果が表れている反面、「毎日同じ時刻に寝ている」「家で学校の宿題をしている」「家で学校の授業の復習をしている」「新聞を読んでいる」等の項目が低いという結果でした。また家庭で学習する時間のピークは全国平均では2時間程度がピークであるのに対し、本校では30分程度がピークでした。土日の時間の使い方については図書館や家で学習する時間は全国に比べて少なく、部活動に参加している割合が高いという結果でした。また、家でテレビゲーム、携帯、スマートフォンを使っている時間がとても多いという結果も得られました。国語では、漢字の読み書きや歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直したり、語句の意味を理解し文脈の中で適切に使うといった項目では高い結果が表れ、語句の意味を適切に書いたり、目的に沿って話し合い、互いの発言を検討するといった内容については課題のある結果でした。数学では、数の計算や数の表し方等は全国とほぼ同様の結果でしたが、作図、図形、反比例等に関する問題では課題が多くありました。本校では「心・技・体の研鑽」をもとに「縄南道」と呼べる教育活動の展開を目標としています。その主体は「人格形成」であり、「一生懸命」「ていねい」「ひたむき」といった「勝因」の要素を磨き、「いい加減」「だいたい」「適当」といった「敗因」の要素を生まないという「心」を育てようとしています。「自分で前向きに勉強に取り組む」「家でしっかり勉強時間をつくって頑張る」「コツコツと丁寧に積み上げる」といったことができれば必ず学力は伸びると考えています。全国学力学習状況調査から得られる結果は学力の一部ではありますが、個々の課題をしっかりと見つめ、「目標、計画を立てて頑張る」「取り組む」といった行動のきっかけとし、自分自身と勝負し、学習の習慣を確立させなければなりません。タイトルの「敵は我にあり」は元楽天イーグルスの野村克也監督が現役時代、前人未到

の3000試合出場を達成された時の言葉です。まさに学力向上も「敵は我にあり」です。

大切な「二つの学力」 ～東大阪市校園長研修における野口克海先生（元府教委理事）より～

先日、東大阪市教育委員会主催による市内小中学校長、幼稚園長を対象にした野口克海先生（元大阪府教育委員会理事、元大阪府教育センター長、元文部省教育課程審議委員、元大阪教育大学幹事）による「学力」に関する研修がありました。野口先生は、学力には2つあると話されています。1つは「受験の学力」である「点数の学力」「偏差値で示される学力」であり、もう1つは「その子の学力」（その子が得意なこと、その子が大好きなこと、一番こだわっていること、その子が一生懸命になれること）があり、この「受験の学力」と「その子の学力」は強くつながっていると話されていました。研修の中で次のような例を出され、大切な「二つの学力」のつながりを話されていました。ある保護者が言われた話の中で、自分の娘がブラスバンド部に入ってトランペットを熱心に頑張っているが勉強の成績がいまひとつつふるわず、中間試験の成績も下がったので、「しばらく部活をやめなさい。」と娘に言ったところ、本人はかなりショックを受けていたという相談を受けたそうです。野口先生はこうした例はたくさんあって、小さい頃からピアノを習わせていたけれど高学年になったからピアノをやめさせて学習塾に行かせる、本人が好きだったスイミングをやめさせて予備校に通わせる等、大人は子どもの成長に応じて、その子の大好きなものを順番に取り上げていくことが多い。学校の先生は、子どもが頑張っている部活動をやめさせたら偏差値も下がってしまう子どもを多く経験しているだけでなく、「その子の学力」を奪えば、部活動を通して自然に身につけていた「生きる力」（例えば仲間とのチームワーク、先輩・後輩などの人とのつき合い方、人間関係、忍耐力、やればできるという自信や自己肯定感）まで奪われてしまうことが多いことを知っていると話されていました。先ほどの例ですが、野口先生はその保護者の方に対して、「娘さんの成績はあがりましたか？」と問うと、「いや、それがなかなか」という答えが返ってきたので、「大好きなトランペットもおもいっきり頑張って、勉強もおもいっきり頑張りなさい。」と言う方が成績も上がりますよとアドバイスなされたそうです。野口先生はご自身が大学で指導されていた経験もあり、最近の大学生で心配にことがあるとも話されていました。最近の大学生は昔に比べて「真面目な子」が多い反面、「何が得意？」と尋ねても「別に・・・」という答えが返ってきたり、「なぜ、この大学に来たの？」と尋ねると「偏差値が丁度このくらいだったから」という答えであったり、「このプリントAさんに渡して」と頼むと、寮の隣の部屋の生徒であるにもかかわらず、「Aさんって誰ですか？」という答えが返ってきたりもする。「自分はこんな人生を送りたい」という夢を持たずに偏差値で自分の人生を決め、友達・仲間のつながりも少ない学生たちが一番心配だと話されていました。「学力向上」に関しての考え方や取り組みは様々あります。本校では10月28日（火）に、「縄手南中学校が考える学力向上」というテーマで研究発表も実施しましたが、「縄南道」では「学力向上」には「人格形成」が必要と、研究発表時でのパネルディスカッションで本校アドバイザースタッフの乾龍介氏もまとめられていました。この野口先生の研修を縄手南中学校の「人格形成」、そして「返事！あいさつ！声！ダッシュ！！」による「縄南道」と重なるものがあるなと思いながら聞いていましたので、紹介させていただきました。

クラブ等の主な記録

第60回青少年読書感想文コンクール東大阪市立中学校の部表彰

石黒美樹(2年)「サクラ咲く」を読んで 加藤優美奈(2年)「レインツリーの国」を読んで
陸上 大阪中学校駅伝出場 永井瑞穂(3年) 蛭原あゆみ(2年) 奥村のえ(1年) 金子実樹(2年) 植田美夕(3年)

水泳 第48回東大阪市中学校総合体育大会

男子50m平泳ぎ第3位 山本夏海斗(3年)35"30 女子200m平泳ぎ第2位 榮永眞優(2年)3'20"05
バレーボール 日新・八尾北・かわち野杯優秀選手賞 岡田萌々子(2年)